

2017年(平成29年)

5月12日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>**■概況**

4/20～4/26のNYMEX・WTIは49.23～50.27ドルと軟化し、50ドル台を割った。

4月27日は、リビアの油田生産再開、前日の米国ガソリン在庫増加発表で3日振りに反落した。6月限の終値は0.65ドル安の48.97ドルだった。週末28日は、ドル安による原油の割安感、前日の買い戻し等で反発した。6月限の終値は0.36ドル高の49.33ドルだった。週明け5月1日は、前週末の米国内石油掘削リグ稼働数が前週比9基増、15週連続増加との発表で反落した。6月限の終値は0.49ドル安の48.84ドルだった。2日は、米、加、リビア等での増産の動き、米の製品在庫積み増し予想等需給緩和懸念拡大で大幅続落した。6月限の終値は1.18ドル安の47.66ドルだった。3日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、ガソリン在庫増が予想より小幅だったこと、ロシアの減産が1日30万バレルの目標に達したことから、3日振りに小幅反発した。6月限の終値は0.16ドル高の47.82ドルだった。4日は、シェールの増産傾向、OPECの協調減産への追加措置には否定的な発言等から大幅反落し、昨年11月29日以来5ヶ月振りの安値を記録した。6月限の終値は2.30ドル安の45.52ドルだった。週末5日は、前日の反動で安値買いが広がり、反発した。6月限の終値は0.70ドル高の46.22ドルだった。週明け8日は、米国内石油掘削リグ稼働数6基増と、OPEC筋の協調減産の延長を示唆する発言後、小幅続伸した。6月限の終値は0.21ドル高の46.43ドルだった。9日は、ドル高と根強い米国の供給過剰懸念により、反落した。6月限の終値は0.55ドル安の45.88ドルだった。10日は、米エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油・製品とも取り崩しとなり、大幅反発した。6月限の終値

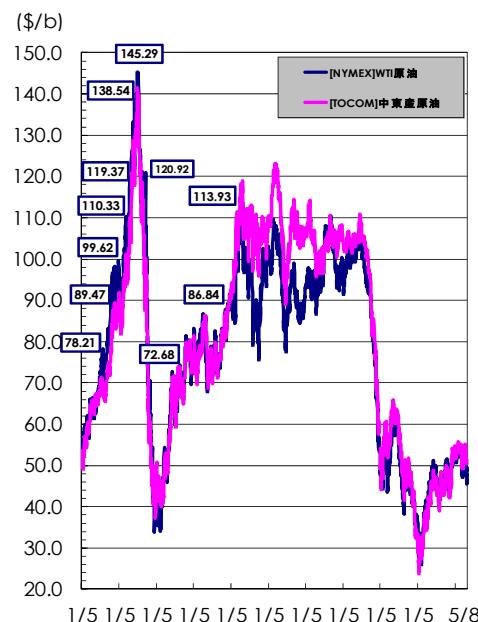
は1.45ドル高の47.33ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)は、前週50.30～51.50ドルと、軟化した。4月27日は49.70ドル、28日は50.20ドル、5月1日は50.60ドル、2日は50.20ドル、8日は48.20ドル、9日は48.30ドル、10日は47.90ドルで推移した。為替は、前週109.05～111.33円の範囲で円高に推移した。4月27日は111.35円28日は111.29円、5月1日は111.49円、2日は111.89円、8日は112.74円、9日は113.28円、10日は113.86円で円安気味に推移した。財務省が10日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、4月中旬の原油輸入平均CIF価格は、37,516円/klとなり、前旬を348円下回った。ドル建てでは53.77ドルで0.03ドル安。為替レートは1ドル/110.91円。

主要元売会社の5月第3週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから1.0円の値下げに分かれた。原油価格は値下がり、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストは値下がりした。

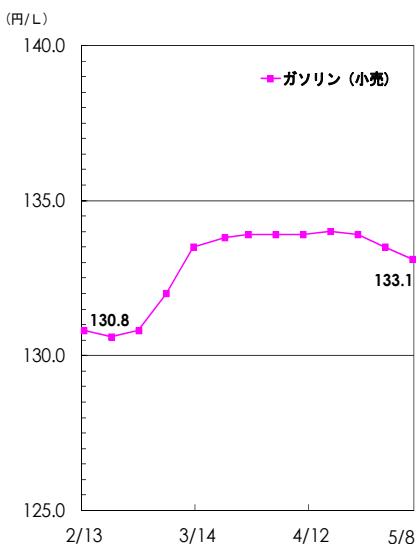
そのような中で、5月1日時点の小売価格は、ガソリンが0.4円値下がりの133.5円、軽油は0.2円値下がりの112.0円、灯油は0.1円値下がりの77.5円だった。この週(5月第1週)の元売の卸価格は0.5円から3.0円の値下げだった。また、5月8日時点の小売価格は、ガソリンが0.4円値下がりの133.1円、軽油は0.3円値下がりの111.7円、灯油は0.1円値下がりの77.4円だった。ガソリン、軽油、灯油いずれも3週連続の値下がり、この週(5月第2週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は据え置きから2.5円の値下げだった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/30～5/6	3,439	▼ -302	▼ -
	トップ稼働率 (%)	〃	87.8	▼ -7.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	5/6	13,748	▼ -1,305	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	5/8	49.00	▼ -2.04	▲ 6.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/8	46.43	▼ -2.41	▲ 3.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月中旬	53.77	▼ -0.03	▲ 16.79
	①原油CIF単価 (¥/kl)	〃	37,516	▼ -348	▲ 11,636
	②ドル換算レート (¥/\$)	〃	110.91	▲ 0.97	▲ 0.36
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/8	113.74	▼ -1.25	▼ -5.29



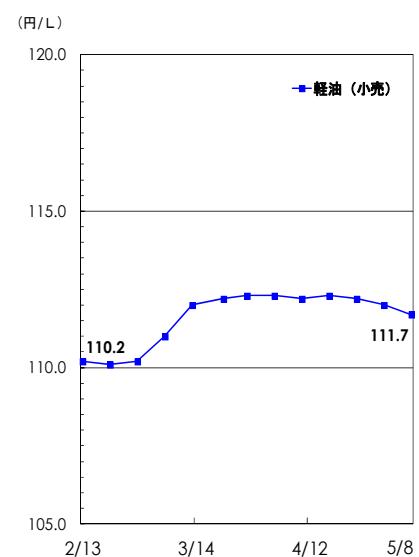
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給		4/30 ~ 5/6	1,032	▼ -6	▼ -
生産		"	n.a.	n.a.	n.a.
輸入		"	1,140	▲ 216	▲ -
出荷		"	45	▲ 15	▼ -
在庫		5/6	1,777	▼ -154	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	5/2 ~ 5/8	49.8	► 0.0	▲ 8.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/2 ~ 5/8	49.2	▼ -0.4	▲ 7.3
		5/8	48.6	▼ -1.0	▲ 7.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/8	133.1	▼ -0.4	▲ 15.1

※業転、先物価格は税抜き価格

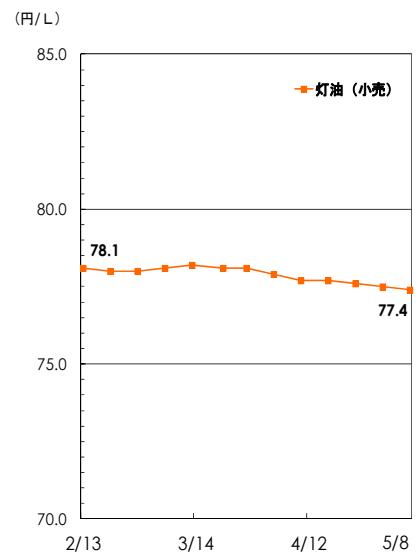


軽油		今週		前週比	前年比
需給		4/30 ~ 5/6	683	▼ -218	▼ -
生産		"	n.a.	n.a.	n.a.
輸入		"	485	▼ -140	▲ -
出荷		"	166	▼ -36	▲ -
在庫		5/6	1,721	▲ 32	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	5/2 ~ 5/8	49.8	▲ 0.1	▲ 12.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/2 ~ 5/8	48.0	► 0.0	▲ 10.5
		5/8	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/8	111.7	▼ -0.3	▲ 11.8

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週		前週比	前年比
需給		4/30 ~ 5/6	204	▼ -70	▼ -
生産		"	n.a.	n.a.	n.a.
輸入		"	167	▲ 22	▲ -
出荷		"	0	► 0	▼ -
在庫		5/6	1,148	▲ 37	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	5/2 ~ 5/8	48.6	▼ -0.4	▲ 12.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/2 ~ 5/8	45.6	► 0.0	▲ 8.3
		5/8	46.0	▲ 0.2	▲ 9.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/8	77.4	▼ -0.1	▲ 15.2



■ 関連情報

1 海外/原油

5月10日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国内原油在庫が市場予想(180万バレル減)を大きく上回る520万バレル減、ガソリン在庫も20万バレル減、中間留分在庫も160万バレル減と、いずれも取り崩しとなったことから、米国の需給緩和懸念が和らぎ、大幅に反発した。また、8日のサウジのアリハ・エネルギー相、10日のアルジェリアのポータルファ・エネルギー相と、協調減産延長への前向き発言が続き、賛同国が増えていることも、値上がりを後押しした。6月限の終値は前日比1.45ドル高の47.33ドル、7月限の終値は前日比1.43ドル高の

47.70ドルだった。

EIAによると、5月1日時点のガソリンの小売価格は前週比3.8セント値下がりの1ガロン2.411ドル(71.6円/㍑)となった。ディーゼルは前週比1.2セント値下がりの2.583ドル(76.7円/㍑)。また、5月8日時点のガソリンの小売価格は前週比3.9セント値下がりの1ガロン2.372ドル(71.2円/㍑)となった。ディーゼルは前週比1.8セント値下がりの2.565ドル(77.0円/㍑)。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、4月30日～5月6日に休止したトッパー能力は32.4万バレル/日で、前週に対して18.5万バレル/日の増加(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は343.9万㎘と、前週に比べ30.2万㎘減少。前年に対しては38.9万㎘の減少。トッパー稼働率は87.8%と前週に対して7.7ポイントの減少、前年に対しては2.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェットのみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.6%減、ジェット/9.1%増、灯油/25.5%減、軽油/24.2%減、A重油/8.9%減、C重油/20.2%減。今週のC重油の輸入は2.5万㎘(前週比2.8万㎘減)。軽油の輸出は16.6万㎘(前週比3.6万㎘減)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、ジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではA重油のみが減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は114.0万㎘(前週23.3%増)と2週連続で前週比で増加、3週振りに前年比で増加となり、14週振りに100万㎘を越えた。

ジェット10.0万㎘(前週11.6%増)、灯油16.7万㎘(前週15.2%増)、軽油48.5万㎘(前週22.4%

減)、A重油11.2万㎘(前週40.8%減)、C重油20.8万㎘(前週24.6%減)。

(単位:千㎘)

	今週 (4/30 ~ 5/6)	前週 (4/23 ~ 4/29)	前週比
ガソリン	1,140	924	▲ 216 (23%)
ジェット燃料	100	89	▲ 11 (12%)
灯油	167	145	▲ 22 (15%)
軽油	485	625	▼ -140 (-22%)
A重油	112	189	▼ -77 (-41%)
C重油	208	276	▼ -68 (-25%)
合計	2,212	2,248	▼ -36 (-2%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月6日時点の在庫は、ガソリン、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、軽油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは177.7万㎘、前週差15.4万㎘減。前年に対しては7.5万㎘少ない。

灯油は114.8万㎘、前週差3.7万㎘増。前年に対しては21.9万㎘少ない。

軽油は172.1万㎘、前週差3.2万㎘増。前年に対しては5.2万㎘多い。

A重油は83.5万㎘、前週差4.9万㎘増。前年に対しては0.9万㎘少ない。

C重油は192.4万㎘、前週差0.7万㎘減。前年に対しては16.4万㎘少ない。

(単位:千㎘)

	今週 (5/6)	前週 (4/29)	前週比
ガソリン	1,777	1,931	▼ -154 (-8%)
ジェット燃料	1,056	969	▲ 87 (9%)
灯油	1,148	1,111	▲ 37 (3%)
軽油	1,721	1,689	▲ 32 (2%)
A重油	835	786	▲ 49 (6%)
C重油	1,924	1,931	▼ -7 (-0%)
合計	8,461	8,417	▲ 44 (0.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月25日から5月8日までの原油コストは、原油価格は値下がりし、為替レートは円安で値下がりをやや相殺したが、原油コストは値下がりと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン103～104円台でやや軟化、軽油49～50円台でやや軟化、灯油48～49円台でほぼ横ばいで推移した。海上スポット価格は、ガソリン100～102円台で軟化、軽油47～50円台で値上がり、灯油45～46円台で、やや軟化した。先物価格は、ガソリン102～103円台でやや軟化、軽油48円台で横ばい、灯油45～46円台でやや軟化した。元売の卸価格は、ガソリン・軽油は据え置きと1円の値上げに分かれ、灯油は全社据え置かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値下がり、製品スポット市況は、油種、市場によってバラツキが見られたが全般的に軟調だった。週間のガソリン販売量は、13週振りに100万㎘を上まわった。

5月第3週(5月11日～17日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月2日～8日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは横ばい、軽油は0.1円の値上がり、灯油は0.4円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.8円、軽油は2.5円、灯油は0.1円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.4円の値下がり、軽油と灯油が横ばいだった。原油価格は値下がり、為替は円安だったが、原油コストは値下がりとなった。

5月第3週の大手元売の卸価格は、据え置きから1.0円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

JXTGエネルギーは、5月10日、11日以降のTG向け外販スポット価格をガソリン・軽油・灯油とも据え置く旨通知した。

(RIM)				(単位: 円/㎘)
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (5/2 ~ 5/8)	前週 (4/25 ~ 5/1)	前週比	
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	49.8	49.8	➡ 0.0
	灯油	48.6	49.0	▼ -0.4
	軽油	49.8	49.7	▲ 0.1

(単位: 円/㎘)				
[期近物/終値] [平均]	今週 (5/2 ~ 5/8)	前週 (4/25 ~ 5/1)	前週比	
先 物 価 格	レギュラー	49.2	49.6	▼ -0.4
	灯油	45.6	45.6	➡ 0.0
	軽油	48.0	48.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

(単位: 円/㎘)				
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	➡ 0.0	▼ -0.4	▼ -0.2	
灯油	▼ -0.4	➡ 0.0	▼ -0.2	
軽油	▲ 0.1	➡ 0.0	➡ 0.0	
A重油	▲ 0.2			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月1日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円値下がりの133.5円、軽油も前週比0.2円値下がりの112.0円、灯油は前週比0.1円値下がりの77.5円だった。

都道府県別には、ガソリンの値上がりは7県、横ばいは5県、値下がりは35都道府県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の128.3円(前週比0.1円安)、最高値は鹿児島県の141.1円(同0.6円安)、都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比0.7円高の青森県(132.2円)、最も値下がりした県は同1.3円安の和歌山県(133.6円)と宮城県(131.9円)、横ばいが高知県・愛媛県・三重県等5県だった。

また5月8日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円値下がりの133.1円、軽油も前週比0.3円値下がりの111.7

円、灯油は前週比0.1円値下がりの77.4円だった。ガソリン、軽油、灯油とも3週連続の値下がりだった。

都道府県別には、ガソリンの値上がりは10府県、横ばいは6県、値下がりは31都道府県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、徳島県の128.1円(同0.6円安)、最高値は鹿児島県の141.0円(同0.1円安)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比0.6円高の長崎県(140.9円)、最も値下がりした県は同2.1円安の岡山県(128.4円)、横ばいが大分県・高知県等6県だった。

原油コストは値下がりし、元売会社の卸価格は、据え置きから1.0円の値下げだった。次週(5月15日)のガソリンと灯油の小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]						(単位: 円/㍑)
小 売 価 格	今週 (5/8)	前週 (5/1)	前週比	直近高値		
レギュラー	133.1	133.5	▼ -0.4	08/8/4	185.1	
灯油	77.4	77.5	▼ -0.1	08/8/11	132.1	
軽油	111.7	112.0	▼ -0.3	08/8/4	167.4	

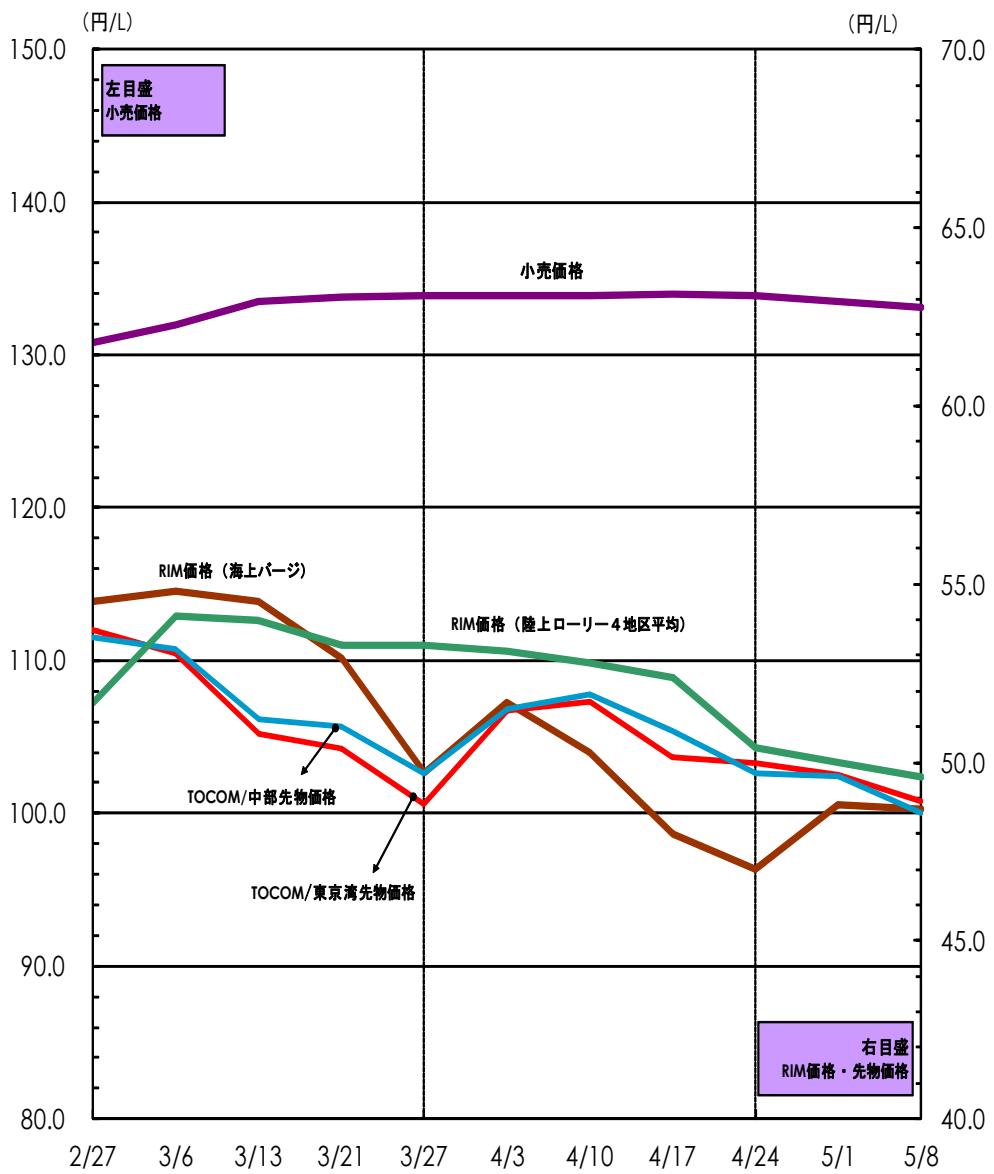
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/2/27 ~ 2017/5/8)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2017第6号）の公表は、5/19（金）14:00です。

「セルフSS出店状況」（平成28年9月末現在）は、12月21日（水）14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LARRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁-HPIに掲載）。